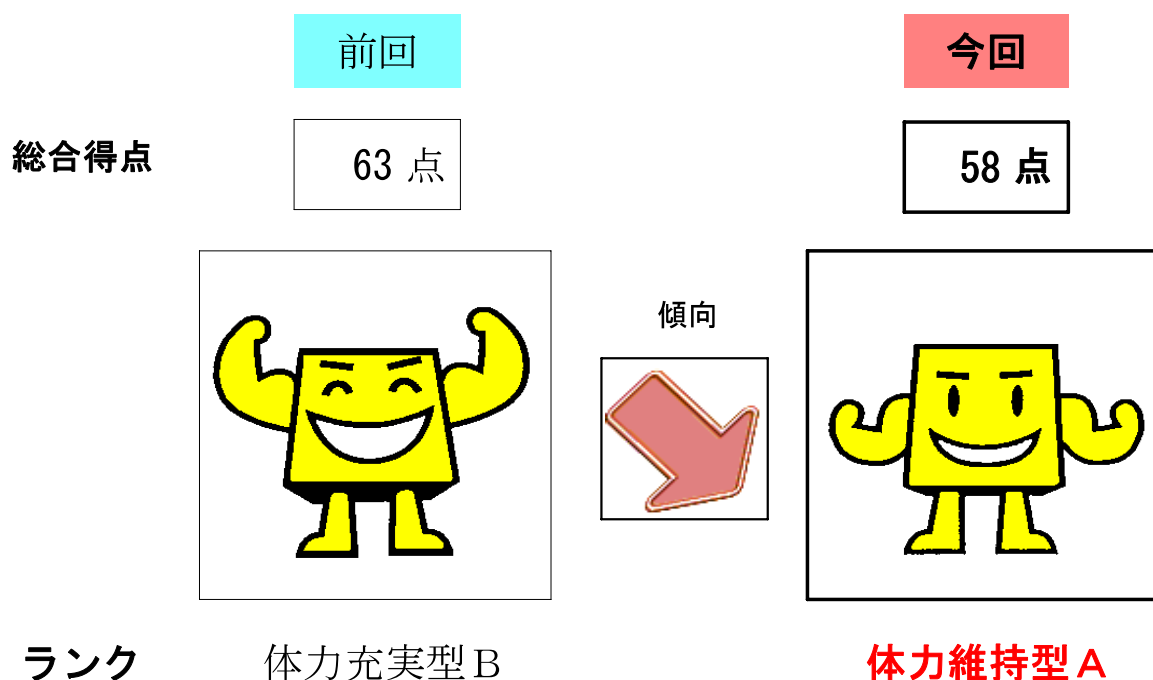


# 総合診断

この「決算診断提案書」では、企業を人間の身体に見立てて、御社の経営体力を診断し、今期検討すべき重点課題が提案されております。



御社の経営体力ランクは、**体力維持型 A** です。

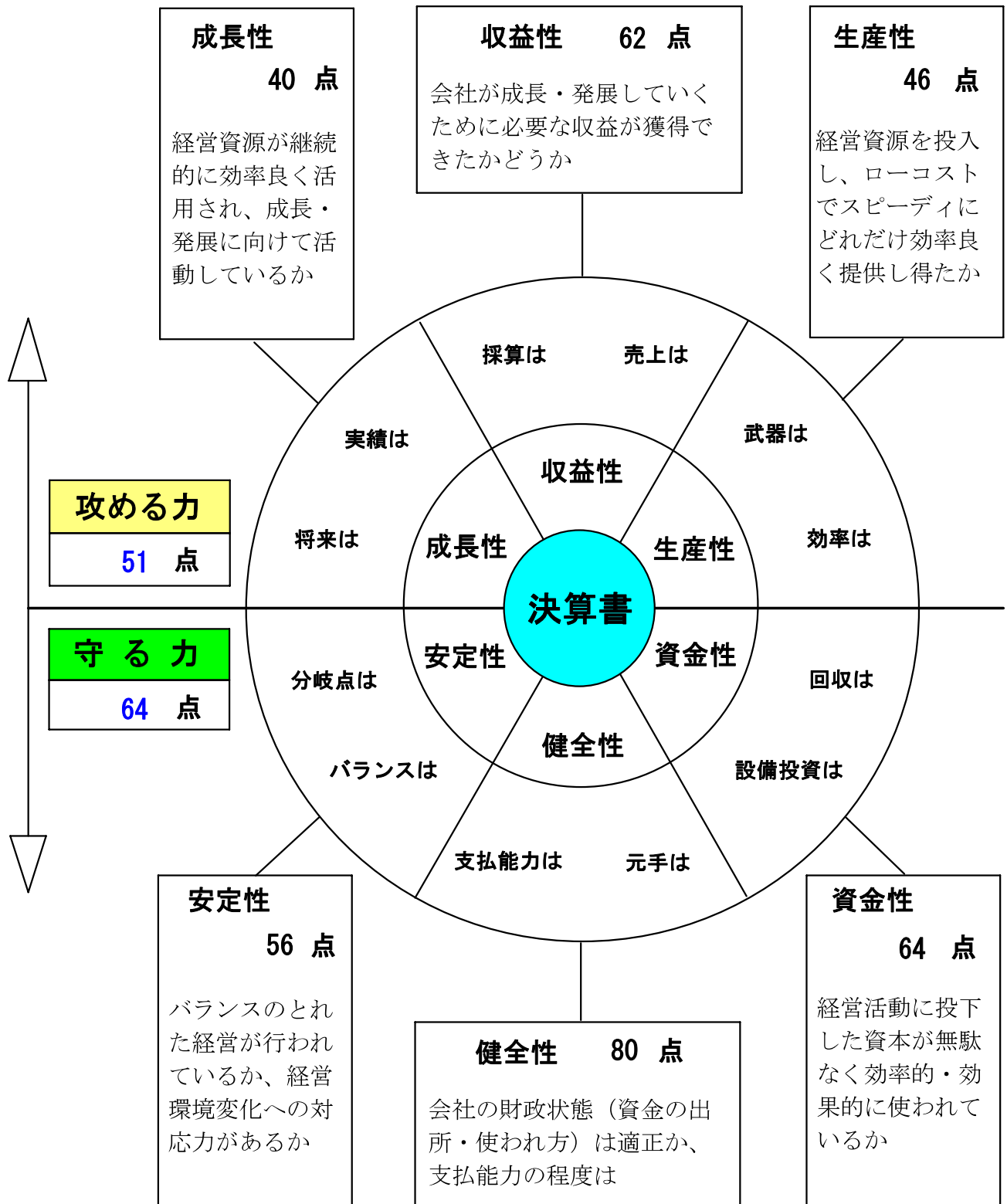
このランクは、財務的に見た場合、ほぼ標準的な水準にあることを意味しており、もっと上位ランクを目指した経営が望まれます。そのためには、後述しております、タイプ別、要素別、分析項目別の分析結果を見られた上で具体的な諸施策を遂行していただく必要があるものと考えております。

ランクが下がり、ほぼ平均的な水準にまで来ました。問題点も少し見られる状況になって来ていると思われまます。従って、後述しております、タイプ別、要素別、分析項目別の分析結果を見た上で、問題になって来た項目と、その原因を明らかにした上で再び上位ランクを目指して改善に取り組んでいただきたいと思ひます。

経営体力タイプ		得点範囲	経営志向	イメージ
健康優良型	A	90点以上	(夢戦略実践型) ① 自社の夢・目標を実現 ② 常に感謝の心をもつ	
	B	80～89点	(戦略・可能思考型) ① 可能性を実行・実現 ② いつも笑顔で貢献する	
体力充実型	A	70～79点	(積極的挑戦型) ① 相手を良くして喜ばれる ② 自社も成功する	
	B	60～69点	(長所伸長型) ① 常に前向きである ② 相手をほめ、長所を見る	
体力維持型	A	50～59点	(プラス発想型) ① 実現できることを信じる ② 絶えず目標をもつ	
	B	45～49点	(成功可能型) ① 勇気をもって踏み出す ② 絶えず能力を高める	
体質改善型	A	40～44点	(改革旺盛型) ① 経営環境の変化に耐える ② 絶えず工夫をする	
	B	30～39点	(体質改善型) ① 可能性を信じる ② プラスの環境をつくる	
体力変革型	A	20～29点	(自社変革型) ① 前進していく ② マイナスを考えない	
	B	19点以下	(苦難観の革新型) ① 障害を乗り越える ② マイナスを見ない	

# 「攻める力」 「守る力」 から見た御社の診断

## 「攻める力」 「守る力」とは



# 「攻める力」「守る力」から見た御社の診断

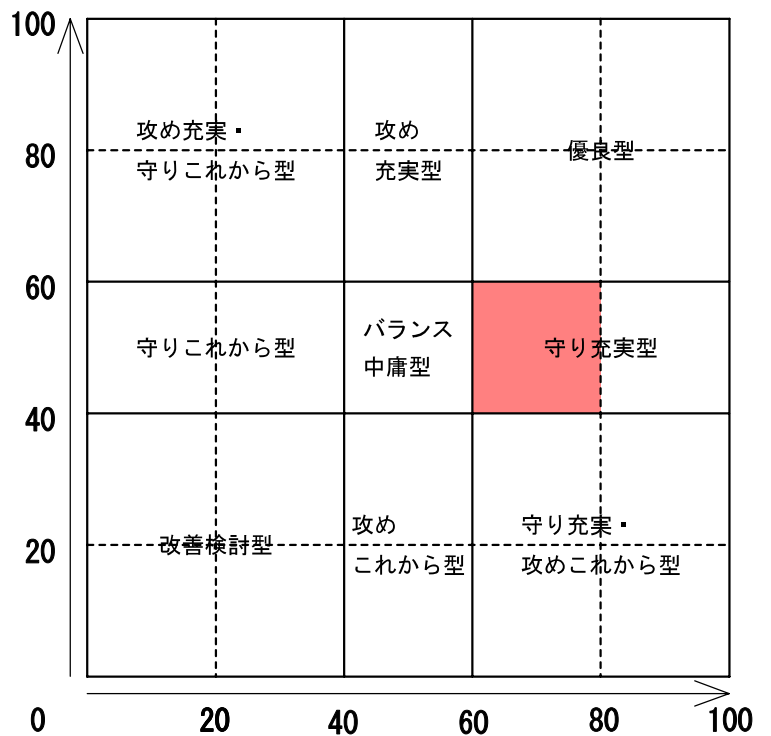
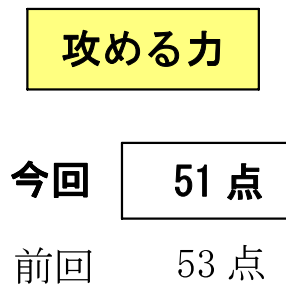
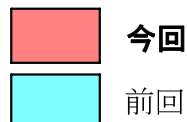
**攻める力** は、次の要素から診断しています。

今回	前回	収益性	・・・	40%	} 100%
51点	53点	生産性	・・・	40%	
		成長性	・・・	20%	

**守る力** は、次の要素から診断しています。

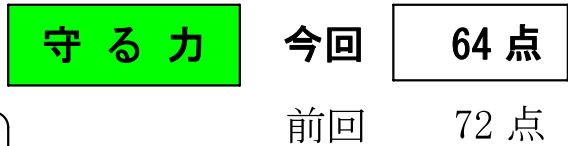
今回	前回	安定性	・・・	50%	} 100%
64点	72点	健全性	・・・	30%	
		資金性	・・・	20%	

御社の位置



御社のタイプ

**守り充実型**



「守る力」は高い水準にあるものの、「攻める力」は平均的な水準にあります。前回と同じ評価であることから、改善が進んだとは見ることが出来ません。「攻める力」の充実が課題といえるタイプです。

# [収益性]について

## 収益性とは？

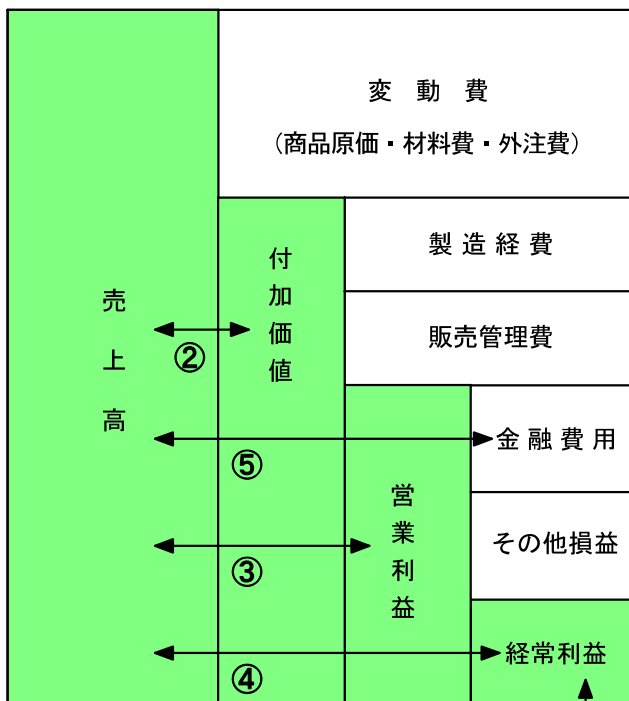
会社が成長・発展していくために必要な収益が獲得できたかどうかをみているものです。  
また、会社の存続・更なる飛躍が遂げられるよう、十分な収益をあげることができるかどうかの判断材料となります。

ランク

7

(注) ランクは10段階で、ランク10が最高です。

## ■ 損益計算書



### ① 総資本経常利益率 (%)

経営活動の効率をみており、会社の実力がどれ位かを示します。

$$\frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} \times 100$$

### ② 付加価値率 (%)

売上をあげて、直接どれ位儲かるのか、商品力の強さを示します。

$$\frac{\text{付加価値}}{\text{売上高}} \times 100$$

### ③ 売上高営業利益率 (%)

本来の営業活動によりどれ位儲かるのか、本業の実力を示します。

$$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

### ④ 売上高経常利益率 (%)

事業活動の成果を判定しており、事業活動全体としての実力を示します。

$$\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

### ⑤ 売上高支払利息率 (%)

金融費用の負担がどれ位かをみており、金利負担の効率性を示します。

$$\frac{\text{金融費用}}{\text{売上高}} \times 100$$

## ■ 貸借対照表

他人資本	総資本
自己資本	

# 貸借対照表の見方

(単位：万円)

流動資産	流動負債
固定資産	固定負債
	純資産

科目区分		金額
流動資産	当座資産	1,955
	棚卸資産	835
	その他	10
	計	2,800
	固定資産	3,630
	繰延資産	0
	<b>総資産</b>	<b>6,430</b>
	流動負債	1,240
	固定負債	3,820
	引当金	0
	純資産	1,370
	<b>総資本</b>	<b>6,430</b>

(自己資本比率 21.3%)

## ● 使途と源泉

上記表の左半分（借方）は、資金の使途（使い道）を示しています。

流動資産は、下記のように区分されます。

- |           |   |
|-----------|---|
| ① 当座資産    | ①→③の順に<br>換金性が高くなっています。<br>(①が最も換金性が高い) |
| ② 棚卸資産    |   |
| ③ その他流動資産 |   |

上記表の右半分（貸方）は、資金の源泉（調達方法）を示しています。

純資産は **自己資本** ともいわれ、資本金と利益の留保額により構成されています。

自己資本を強化することが重要です。

純資産以外は **他人資本** ともいわれ、他からの借入と考えられます。

## ● 運転資金と設備資金

上記表     の部分により、自社の運転資金を把握することができます。

流動資産から流動負債を差し引いた部分を **正味運転資金**とといいます。

正味運転資金が豊富であれば、日常の資金繰りは楽だといえます。ただし、多額の不良在庫を抱えているような場合は、その分は除外して考える必要があります。

上記表     の部分により、自社の設備資金を把握することができます。

固定資産（設備投資）に投入された資金は固定化されます。

したがって、**長期資本**（純資産・固定負債・引当金）により調達されることが重要です。